



ユース五輪アジア予選
棒高跳びで銅メダル
上原 響さん・17歳
富士見町時沢

夢の舞台へ向け記録に挑む

5月21日・22日にタイで行われたユース五輪アジア予選に棒高跳び日本代表選手として出場。アジアの選手と競い、銅メダルを獲得した。

「初めての国際大会で緊張しましたが、とてもいい経験になりました。優勝を目指していたので今回の成績には満足していません。練習を重ね、今後の大会で悔しい思いを晴らしたいです」

現在、市立前橋高の2年生。棒高跳びの選手だった父の影響で小学生から練習場に入りし、本格的に競技を始めたのは中1の時。平日は学校での基礎練習を中心に、土日曜は専用練習場で実践を積む。「練習はハードですが、記録

を伸ばすためと思い、前向きに取り組むようになっています」指導者は「コツコツと練習に取り組み真面目さと、ここ一番での思い切りのよさが彼の持ち味」と語る。

そんな姿勢が記録に現れ、昨年、日本陸上競技連盟の五輪育成競技者に選出。ことし1月には強化合宿にも参加した。「全国有数の選手が集まる合宿は大変刺激になりました。五輪は小さい頃から夢見ていた舞台。東京五輪の年は23歳になるので、国内外の大会で記録を残し、日本代表に選ばれたいです」2020年、そしてその先へ。世界レベルでの活躍が期待できそうだ。



バラに囲まれ挙式

6月1日、敷島公園ばら園で「ばら園結婚式」を開催。バラのアーチをくぐり抜け、新郎新婦が入場。多くの人々に見守られ、永久の愛を誓いました。式の終了後には、2人から参加者へ切りバラをプレゼント。幸せあふれるひと時でした。



この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第2回はアーツ前橋のカフェ利用者、富澤郁子さんです。

アーツの全てを味わって

富澤 郁子さん・55歳



アーツ前橋は、住吉町のわが家から広瀬川の遊歩道を歩いて15分。新しい展示などがあると、家族で歩いて行きます。作品を鑑賞した後、立ち寄るのが館内

のショップとカフェ。館内で作品たちと出会うことは、何百人の人と握手やあいさつをして無言の会話を続けるようなもの。それはとても楽しいのですが、ふと気が付くとぐったり疲れ、妙に頭が冴えたようになるので、クールダウンするために利用しています。

いつも注文するのは「カフェラテ」。コーヒーの上に、白いミルクで描かれたラテアートがそっと置かれています。このアートを初めて見たときの感動が今でも忘れられません。口に含み、熱いコーヒーが喉元を流れた後、そこにはほのかに甘くて温かいラテアートのミルクが流れて行くとき、これを至福と言わずしてなんと言おうかと思いました。きつと、またカフェを訪れたら「カフェラテ」を注文してしまうと思います。そして、コーヒーとミルクの芸術を飲み干して、カップの底に残ったわずかな泡に心を残しながら、街へと帰ってくるに違いありません。

まだ訪れたことのない人には、ぜひ、展示とショップとカフェと、その全てを味わってほしいと思います。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-2300-1144



日本の美しい心を体験

5月25日、市民文化会館で日本吟道全国大会が開催されました。日本の伝統芸能である吟道の普及を行っている吟道学院の会員が水と緑と詩のまち・前橋に集結。日頃の鍛錬の成果を発表し、吟道の奥深さや素晴らしさを伝えました。



身近な歴史遺産の数々に驚き

5月30日、「赤城南麓の魅力と歴史を探る施設見学会」が開催されました。大室公園や大室古墳群、阿久沢家住宅、粕川歴史資料民俗資料館などをバスで巡回。赤城南麓の歴史を交えた解説に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。